

令和3年度第1回沿岸地域振興圏地域連携懇談会 開催概要

1 日時 令和3年8月6日（金）14時～15時20分

2 場所 釜石地区合同庁舎4階 大会議室

3 参集者

- (1) 赤坂広太委員、内金崎加代子委員、金澤辰則委員、佐々木淳子委員、佐藤智子委員、志田宏美委員、山元一輝委員
(オンライン出席) 岩城創委員、河野通洋委員
- (2) 沿岸広域振興局長、副局長、副局長（宮古市駐在）、副局長（大船渡市駐在）、経営企画部長兼復興推進室長、保健福祉環境部長、農林部長、水産部長、土木部長、経営企画部産業振興室長、経営企画部企画推進課長（事務局）

4 概要

○ 局長挨拶

皆様におかれましては、御多用にもかかわらず、委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。

この懇談会は、沿岸広域振興圏の地域振興プランの推進にあたり、実際に地域で活躍されている皆様の御意見を伺い、より効果的な施策展開を進めるために設置したものです。

プランは4年間の計画であり、今年度は3年目を迎えているところです。

これまで、プランに則り、東日本大震災津波からの復興復旧、地場産業の振興、地域包括ケアシステムの推進など安心して暮らせる社会づくりに取り組んできたところですが、新型コロナウイルス感染症により、昨年度、そして今年度も多くの事業で中止もしくは縮小を余儀なくされているところです。

今、振興局では、保健所と一緒に感染予防対策に取り組む一方で、困難な状況に置かれている事業者への支援に力をいれているところですが、本日は、このような状況の中での昨年度の振興局の活動についての評価案をお示しし、御意見をいただくとともに、今後、どのような取組を進めればいいのか、様々な御意見を聞かせていただければと思います。

皆様には普段、県政に対して感じられていることや御希望、御意見を率直にお聞かせいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

(1) いわて県民計画(2019～2028)について

事務局から資料No.1 に沿って説明

(2) 令和2年度「沿岸広域振興圏 施策評価」について

事務局から資料No.2 に沿って説明。

【志田宏美委員】

(志田委員が代表取締役を務める会社で「いわて地球環境にやさしい事業所」の認定を受けていることについて)

当社では、CO2削減の目標を掲げて、燃費をどれだけ削減するかを行っているが、0.1%削減したという形では分かりづらいので、金額に換算して社員に示し、削減額を給料に還元するとアナウンスしたので、いい効果が表れたと感じている。

⇒ 取り組まれる社員の方々に実績が分かってもらえるのが一番。そのような工夫が大事。最近地球温暖化が話題になる機会が多いが、地道なところからすこしずつ変えていくことが大事だと思っているので、そのやり方を是非とも他の会社にも伝えていただければと思う。

【局長】

【山元一輝委員】

(釜石港について)

当社は海運業にも取り組んでおり、海運業者の立場で申し上げると、復興事業も収束するなかで、関東地方から、工事関係で使用する石材の引き合いがあった。釜石・大槌の石材を売り込むため、釜石港から出荷できないかと動いたが、釜石港の公共ふ頭は非常に狭く、現在の利用者との調整が難航して、1、2か月かかり、いざ調整が終わった時にはタイミングを逃すということがあった。いわて県民計画でも、機能拡充した港湾施設を活用した地域産業の振興がうたわれているので、地元のいろいろな地場産品を県外に出すうえでも検討をお願いしたい。

⇒ 商売はタイミング。商機を逃すとどうにもならない。行政は手続きにしばられて、なかなか進まないところがあるので、そのような点を教えていただいて、予めそのような時にはどうするのかという形での検討を進めて、対応できるようにしておくことが必要。【局長】

公共ふ頭については、使う方々の使い勝手を良くすることをまず考える必要がある。ただ、狭いということに関しては、直ぐには広げられないところもあるので、海運業者や輸送業者など港湾利用者と情報交換しながら、使い勝手を良くし、先々を見据えた形で調整できるようにしたい。【土木部長】

広げると時間もかかり予算もかかるので、あとは使い方ところで、どう効率的に利用するかという話だと思う。いろいろな提案をしていただければと思う。【局長】

【内金崎加代子委員】

(起業に新しくチャレンジするきっかけ、それに当たって助かる支援について)

飲食業に初めてチャレンジした。家の再建まで、かさ上げを含めて6、7年かかるので、その間に、助成金を使い、専門家からの指導により勉強させてもらった。備品を購入できる助成金が少ないなかで、冷蔵庫などを買える三陸チャレンジという助成金は大変ありがたかった。店を始めてから4年目に入り、コロナのため飲食業は大変だが、できることをやるしかないと取り組んでいる。

(新しい提案について)

高齢者が活躍する場が欲しいと思っている。元気な高齢者もいるし、家から出てこない高齢者、特に男性が多いが、そういう方も、もう少し活躍できる場があると、生きがいをもって元気で頑張れると思う。

大槌町では、最近、江戸時代の価値ある仏像を修復して公開しており、昔からあるものを

生かした観光振興を、町をあげてやっていけたらいいと思っている。

一時期流行った街コンがすっかりなくなった。参加者が少なかったのかもしれないが、形を変えて何かできるようなものがあればいいと考えている。

⇒ 様々な御提案をいただいたが、私たちが特に力を入れなければいけないと思っているのは、被災者の生活の再建。特に高齢者の方々が、災害公営住宅など、住んでおられる場所からなかなか出てこられず、今までは訪問して確かめるということに力をいれていた。様々な事情がある方がいるので、一概には言えないことだが、本来的には、そういう方々が頼られ、活躍して、社会貢献できるような居場所を作り、社会の方に出ていただき、町の活性化を図っていくことが必要だと考えている。震災からの復旧の他に、沿岸各地では人口減少という問題があり、人口が減る中で社会システムを維持するために、住民の皆様一人一人が、得意な分野で活躍できるような社会作りを進めていきたいと思うが、なかなかいいアイデアがないので、皆様からお知恵を拝借したい。【局長】

【岩城創委員】

(農業における問題について)

全国どこの地域でもそうだと思うが、農業では担い手不足が大きな問題。その中でも山田町では新規就農する人が一年に一人もいないくらいの状況。各市町村で担い手を呼び込む施策を、外に発信できればいいと思う。例えば、宮古のハローワークに求人を出しても、なかなか人は来ないが、インターネットで求人を出すと全国から問い合わせがくる。地域だけにとらわれず、広い範囲で、岩手県でこういう農業をやっているという情報発信ができれば、人も集まるのではないかと考えている。また、受入れてからの問題もある。私も今、島根県から移住されている方を受け入れているが、アパートを探すのに苦労している。例えば、市営アパートなど空いているところを使えばいいと考えている。

⇒ 以前、復興関係の会議で、農林水産業に新しく人が就業するためには、どういったことが必要かということで意見交換した。その中で、行政に一番力を入れて欲しいのは、経営の費用補助のほかに、後継者が不足している農林水産業の従事者と、新たに三陸で農業や漁業をしたいという人たちをどう結び付けるかだと言われた。三陸に来て、農業・漁業をしたいと思っている人たちも、どこに行っても誰に教えてもらったらいいいのかわからないので、行政にはそこに力を入れてほしいと言われたことがある。これまでも、東京などで就農や漁業をしませんかなどと募集してきており、行政では、その次は資金面と考えていたが、資金面だけでは足りないと言われてきた。実際に活躍されている方々から教えていただければと思っているので、よろしく願いしたい。【局長】

「令和2年度施策評価」については、今後、暫定版として、沿岸広域振興局のホームページに掲載させていただき、実績が確定し、空欄が埋まり、全て完成した段階で、完成版としてホームページに掲載させていただく。【経営企画部長兼復興推進室長】

- (3) 令和3年度 沿岸広域振興局の重要課題と具体的取組について
事務局から資料No.3 に沿って説明。

【赤坂広太委員】

(修学旅行の状況と震災学習について)

今まで体験に訪れていたのは、東京、神奈川など首都圏や、北海道の学校だったが、コロナ禍になってからは、主に岩手県内の小中学校が来るようになった。

震災学習に関しては、陸前高田の津波伝承館、大船渡や、宮古の学ぶ防災で話を聞いたり、見たりしたあとに当社で体験を行ってもらっている。

⇒ 沿岸に来ていただいて、震災でこういうことがあったということを知っていただくことも主要な課題の一つだが、いい思い出も持って帰ってもらわないと、戻ってからまた来ようという気にならない。知っていただくこと、楽しんでいただくこと、美味しいものを食べていただくことの三つをセットにして提供できればいいが、なかなか組み合わせが微妙なところもあるので、いいアイデアをいただければと思う。【局長】

【佐々木淳子委員】

(「ぼうさいこくたい」について)

6月に開催された食育推進全国大会は直前になってリモートでの開催となったが、11月に開催予定の「ぼうさいこくたい」も、婦人消防として要請がかかっているが、このコロナの状態はどうなるのか。

⇒ 国の方でも、7月中になんらかの目途を出したいという話で当初進んでいたが、もう少しコロナの状況を見たいということで、決定が先送りされている状況。県の方にも具体的な情報が来ていないので、来た段階で早めにお知らせしたい。【副局長】

食育推進全国大会もリモートで参加させていただいたが、もしかしたら、「ぼうさいこくたい」もそういうことになることも考えられるのではないかと考えていた。【佐々木淳子委員】

⇒ まだ大きな方針が、国の方で決まっていないということを知っている。今、県庁の担当部署と振興局で、ぼうさいこくたいに関連したイベントの企画準備をしており、何らかの形で、防災情報を釜石からしっかり発信できるような取組を引き続き検討するというところで進めている。なにか、お声がかかった時にはよろしくお願ひしたい。【経営企画部企画推進課長】

【佐藤智子委員】

(傾聴ボランティアの活動について)

気仙地域傾聴ボランティア「こもれびの会」では、いつも大船渡保健所に支援いただき、ボランティア活動を行っている。大きな力をいただきながらやっているところ。

傾聴の会「こもれびの部屋」は、毎週金曜日に行ってきたが、このコロナ禍で会員や利用者の安全を考え、第一、第三金曜日の開催としている。

私たちは自殺対策の一環で、県がボランティア養成講座を平成17年頃から、大船渡市では19年から開催して、傾聴ボランティア養成講座を修了した方たちで活動している。毎月勉強会を開きながら、先生方をお呼びして傾聴について学びながら活動している団体なので、安心してお話していただければと思っている。巷で買い物しているときでも、こんなところで

いいのかと思うようなところでも、話をされる方がいて、時間を決めながら、話を聞かせてもらっているが、こういう場所があると言っても、なかなかいらっしやらない。一人でも二人でも来ていただいて、いくらかでも心が軽くなって帰っていただければいいと思ってやっている。職場で働いている方たちも、働きながら、子育てしながら、いろいろな問題を抱えていると思うので、そういう方々に、是非皆さんからも発信していただけたらと思う。

⇒ 日頃の御活動に感謝する。昔であれば、地縁組織で話をすることがあったが、最近では、そういうこともなくなっている。人は悩みを聞いてもらえれば、そこで自分の中で解決策を考えていくということができるが、だれにも言わないで悶々としていると良い方向には進まない。行政としてホームページなど様々なところで宣伝しているわけだが、こういう場所があるということを知っていただくことが一番大事だと思う。様々な御相談を受けて大変だと思うが、それだけ地域に頼られているということでもあるので、今後ともよろしくお願ひしたい。【局長】

【金澤辰則委員】

(移住コーディネータとして苦勞している点、移住定住を増やす方策について)

コロナ禍ということで、人を呼ぶというのは喜ばれない状況。岩泉町でも令和2年度実績で首都圏を中心に6人、今年度も2人、主に地域おこし協力隊の制度を活用しながら、移住者として来ていただいているが、コロナ禍で、町として大々的に宣伝できないところが苦しいところ。

特に首都圏に第一次産業でうまくPRできればかなりの問い合わせが来る。例えば岩泉町は畑わさびが日本一の産地であるので、その情報を発信すると、月に10名くらいの問い合わせが来る。必ずしも移住につながるわけではないが、それくらいのリアクションがあるので、自分自身色々考えながら、情報発信は日々工夫を重ねていかないと埋もれていってしまうので、岩泉町の色をどうやって出していくか、考えてやっていきたいと思っている。

【河野通洋委員】

(岩手県の三陸沿岸部への観光について)

コロナ禍において、観光需要の取り込みということを考えると、今のうちに手を打っておかないと、地域間競争に置いて行かれると予測している。三陸道がつながって無料区間が延長されているので、コロナが収まると仙台圏もしくは仙台を入口として全国から三陸道を使ってお客様が来ることが予測されるが、このままでいくとかなり厳しい状況になるのではないかと考えている。その要因の一つとして挙げるのが、宮城県の民間の取組が非常に一生懸命なこと。代表的な観光地と言うと松島があるが、松島を見た後で、南三陸に行こう、女川に行こう、気仙沼に行こうと回るところがたくさんある。それぞれの地域が特色を出していて、非常に魅力的な取組を民間が行っているのが、宮城県で泊まり、岩手県には来ずにそのまま帰ることが懸念される。岩手県に来たとしても、花巻温泉に泊まり、平泉を見たりしても、三陸沿岸までどれだけ集客できるかが、これからの我々にとっての大きな課題になってくると思っている。

(食品製造メーカーの海外展開について)

これから我々、食品製造メーカーは、どんどん海外に展開していかないといけない。日本国内だけで商売する時代はもう終わってしまって、海外に営業の拠点を作るとか、そういったことを例えば一社だけだと弱いので、複数社で連携してやっていくということ、今から真剣に協議して、準備していく必要があると考えている。当社の現状で言うと、今月もフランスに5パレット輸出していて、ヨーロッパ向けの輸出量がどんどん増えている。日本の食品衛生への信頼感や、日本文化に対する親近感というものを世界中の人がもっているから、このチャンスを生かす必要があると思っている。当社は、自社で直接輸出をして、商流も物流も作っているの、そこをプラットフォームとして、岩手県内、三陸沿岸の素晴らしい商材を今後も展開して、世界中の人に販売していきたいと考えている。

(発酵パーク「カモシー」について)

PRになるが発酵パーク「カモシー」という商業施設を昨年12月にオープンした。コロナの影響で、外からお客様が来ないかわりに、地元の人にゆっくりと滞在していただける空間になっている。ぜひ、コロナが収まって外の方がたくさん来る前に、皆様に来て楽しんでいただきたい。「カモシー」だけでなく、「オーガニックランド」ができたり、これからも新しい展開が陸前高田では進んでいくので、その都度定点観測をしていただければと思う。

(4) まとめ

【局長】

今日は長時間いろいろな御意見をきかせていただき、ありがとうございました。

皆様方の御発言にもあるとおり、様々な問題を抱えており、取組を進めていかなければならない。今求められているのは、この三陸地域の魅力をどう組み合わせるかとということ。そういうところに施策を持っていくためには、皆様方の普段、感じられていることを教えてもらって、それをどう反映させて実現させていくのが一番大事だと思うので、この後も遠慮なく、振興局に電話やメールなどで、いろいろと教えていただければと思う。